

iStorage NS500Rk (2nd-Gen) ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用にあたり、ご注意いただきたいことがあります。誠にそれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。
なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

◇ Index

- 1) はじめに
- 2) 装置起動時に関する注意事項
- 3) システム ROM の機能に関する注意事項
- 4) iL06 の機能に関する注意事項
- 5) OS に関する注意事項
- 6) 全般の機能に関する注意事項
- A) ファームウェア変更に伴う変更点

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下の Web サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」より、「3170102976」を入力して検索してください。

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト <https://jpn.nec.com/esmsm/>

NEC サポートポータル <https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

の最新の情報およびバージョンを確認し、利用してください。

● Starter Pack について

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

Web サイトに掲載されている内容を確認し、バージョン S8.10-013.02 以降を適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「S8.10-013」を検索)

● 本製品の保守作業時間に関して

本製品は、障害発生時などの保守作業において、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバーの組み合わせによっては、保守作業に時間を要する場合があります。

2) 装置起動時に関する注意事項

● 「Memory Initialization - Start」のメッセージで POST 停止した場合の対処について

本体装置の電源投入後、「Memory Initialization - Start」のメッセージで、まれに POST 停止することがあります。

本現象発生時は、以下の手順で復旧してください。

- ① 本体装置前面の POWER スイッチ(または、iLO Web インターフェイスにある Power アイコン)を 4 秒以上長押しして、本体装置の電源をオフにします。
- ② 本体装置前面の POWER スイッチ(または、iLO Web インターフェイスにある Power アイコン)を押して、本体装置の電源をオンにした後、正常に起動することを確認してください。

現象発生時の POST メッセージ

```
NEC iStorage System BIOS UXX vY.ZZ (mm/dd/yyyy)
Early system initialization, please wait...
System Chipset initialization
UPI Link initialization - Start
UPI Link initialization - Complete
Early Processor initialization
Memory initialization - Start
```

3) システム ROM の機能に関する注意事項

● UEFI Boot Order Control の注意事項

システム ROM バージョン 2.32 の場合、UEFI Boot Order Control メニュー(*1)で新たなブートデバイスの有効化、または無効化の設定や保存ができません。

詳細は以下の Web サイトを確認してください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109992>

ブートデバイスの起動優先順位を変更する際は、UEFI Boot Order メニュー(*2)にて行ってください。

また、UEFI Boot Order メニューまたは UEFI Boot Order Control メニューに移動するたびに、画面下段にある“Changes Pending”文字列の前に赤い◎が表示されます。

必要に応じて<F10>キーを押下し、設定の保存を行ってください。

(*1) 「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order Control」

(*2) 「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order」

システム ROM バージョン 2.44 ではこの問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

4) iLO6 の機能に関する注意事項

● iLO の再起動を行う場合の注意事項

以下に示すタイミングにおいては、iLO の再起動を行わないでください。

- ・ サーバー起動から OS の起動完了までの間 (POST 実行中も含む)。
- ・ システムユーティリティの操作途中。

該当タイミングで iLO の再起動を行うと、予期しない動作を引き起こす可能性があります。

例えば、POST 実行中に iLO の再起動を行うと、iLO Web インターフェイス: 「Information」 > 「Overview」ページにおける UUID、UUID (論理) の表示が不正な値となる場合があります。また、システムユーティリティの設定変更などの操作の途中で iLO の再起動(*)を行うと、直後のシステム再起動処理 (Reboot) が正常に実行されない場合や、本体装置に記録されている Serial Number および Product ID などの設定情報が消失してしまう場合があります。

もし上記のような不正な表示や動作が発生した場合は、本体装置の電源をオフにし、再度オンにしてください。

<対象となる iLO の再起動の方法>

- ・ iLO Web インターフェイスなどを利用したネットワーク経由での iLO の再起動。
- ・ UID スイッチを使用した iLO の再起動。

(*) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後の iLO の再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

● iLO のダウングレードポリシー機能の注意事項

iLO の拡張ライセンスがインストールされている場合、「Security」 > 「Access Settings」 > 「Update Service」 > 「Downgrade Policy」の設定を **[Permanently disallow downgrades]** に変更しないでください。

[Permanently disallow downgrades] に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、本設定は一度設定を行うと永続的に保持されるため、Set to factory defaults オプションから iLO を出荷時のデフォルト設定にリセットを行ったり、その他の iLO の各種インターフェイスや各種ユーティリティから本設定を行おうとしても、[Permanently disallow downgrades] 設定は維持されます。

● iLO Web インターフェイスのセキュリティアイコンに関する注意事項

iLO Web インターフェイスの「Information > Security Dashboard」および iLO Web インターフェイス画面の右上部に  リスクが表示される場合があります。

RBSU の設定や iLO の設定の内容によって、iLO セキュリティの状態がリスク状態 (赤色) で表示されますので、お客様のセキュリティポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO6 ユーザーズガイドを参照してください。

ただし、[Require Host Authentication] 設定については、本書内の「iLO Web インターフェイスの [ホスト認証が必要] 設定における注意事項」に記載がありますので、確認してください。

iLO の負荷の状態により「Information > Security Dashboard」の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Web インターフェイス画面の右上部の”iLO セキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。

「Information > Security Dashboard」の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● ネットワークブリッジ構成時の iLO Web インターフェイスのネットワーク情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成して使用する場合、iLO Web インターフェイスの「Information > Network > Physical Network Adapters」に表示される内容が OS 上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS 上のネットワークアダプターのプロパティで確認してください。

● iLO Web インターフェイスの[ホスト認証が必要]設定における注意事項

「Security > Access Settings > iLO」にある[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を[有効]に設定しないでください。

[有効]に設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・ ESMPRO/ServerManager のアラートビューアに、“Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・ Starter Pack (Standard Program Package) を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能を利用できません。

- ・ エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・ RAID 通報サービス
- ・ サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- ・ iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

● iLO Web インターフェイスの Agentless Management Service (AMS) のステータスについて

iLO Web インターフェイスの「System Information > Summary > Subsystems and Devices」の Agentless Management Service (AMS) のステータスにおいて、不明(または利用不可能)(*)と表示された場合、iLO リセットを実施してください。またその後 10 分程度経過してから、以下の対象 OS ごとの再起動方法を参考に、Agentless Management Service (AMS) を再起動してください。

< Agentless Management Service (AMS) の再起動方法 >

- ・ Windows の場合
「Windows の管理ツール > サービス > [Agentless Management Service]」を右クリックし、再起動してください。

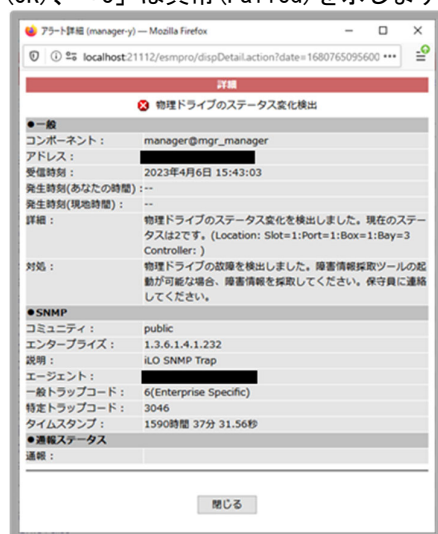
(*) Agentless Management Service (AMS) のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iLO Web インターフェイスの「System Information > Storage」や「System Information > Network」の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。

● 物理ドライブの通報に関する注意事項

論理ドライブを構成した環境で物理ドライブを取り外した際、物理ドライブ故障のエクスプレス通報が通知されません。

また、ESMPRO/ServerManager アラートビューアにおいて「物理ドライブのステータス変化検出」が通知されますが、仕様変更に伴い詳細欄のステータス値が「3」ではなく、「2」が表示されます。

* ステータス値の「2」は正常(OK)、「3」は異常(Failed)を示します。



● 仮想シリアルコンソールに関する注意事項

iLO6 ファームウェアバージョン 1.70 をご使用の場合 :

SMASH-CLP からテキストベースの仮想シリアルコンソール表示のための vsp コマンドを実行すると、” VSP is disabled” が表示され、シリアルコンソール出力の表示が行われません。

vsp コマンドの代わりに以下のいずれかの方法で仮想シリアルコンソール表示を実施してください。

- ・ SMASH-CLP を使用する場合
start /system1/oemNEC_vsp1
または
cd /system1/oemNEC_vsp1
start
- ・ IPMI I/F を使用する場合(ipmitool での使用例)
ipmitool -I lanplus -C 17 -H <iLO IP address> -p 623 -U <iLO Account> -P <iLO Account Password> sol activate

● LLDP に関する注意事項

iLO Web インターフェイスの「iLO Dedicated Network Port > LLDP」において、「Link Layer Discovery Protocol」を有効に設定すると、同一ネットワーク上に LLDP サポート機器が存在せず隣接機器のデバイス情報の取得ができない場合に「LLDP 情報が見つかりません」と表示され、これ以降「Link Layer Discovery Protocol」の有効/無効の切り替えができなくなります。

万が一、設定変更ができなくなった場合には、「BMC Configuration Utility > Set to factory defaults」を実行し、工場出荷時のデフォルト設定に戻すことで解消できます。

● Server Platform Services (SPS) ファームウェアに関する注意事項

iLO6 ファームウェアバージョン 1.70 未満の場合、Server Platform Services (SPS) ファームウェアバージョン 6.1.4.204.0 を適用すると、iLO Web インターフェイスの「Firmware & OS Software > Firmware」での SPS ファームウェアバージョンが正しく表示されないことがあります。

iLO6 ファームウェアバージョン 1.70 以降においては正しく表示されますので、アップデートを推奨します。
また、システムユーティリティの Firmware Information メニュー(*)では、正しい SPS ファームウェアバージョンを確認できます。

(*) 「System Utilities > System Information > Firmware Information」

● ネットワーク情報表示に関する注意事項

- ・ iLO6 ファームウェアバージョン 1.74 以降の適用装置で、iLO Web インターフェイスの「システム情報 > ネットワーク」において、ネットワークポート情報が表示されない場合があります。
OS のツール (Windows Server: ipconfig など) を使用して確認してください。

アダプター 3 - Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4

SKU --
ロケーション PCI-E Slot 2
ファームウェア 1.3063.0
ステータス OK

ネットワークポート

↑ポート	MACアドレス	IPv4アドレス	IPv6アドレス	リンクステータス	チームブリッジ
1	04:00:00:00:00:00	192.168.1.104	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
2	04:00:00:00:00:00	192.168.1.105	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
3	04:00:00:00:00:00	192.168.1.106	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
4	04:00:00:00:00:00	192.168.1.107	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A

正常時の表示例

アダプター 3 - Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4

SKU --
ロケーション PCI-E Slot 2
ファームウェア 1.3063.0
ステータス OK

ネットワークポート

事象発生時の表示例

- ・ iLO6 ファームウェアバージョン 1.74 以降の適用装置で、iLO Web インターフェイスの「システム情報 > ネットワーク」において、PCI スロットに同一型番の NIC が複数台搭載された場合、ネットワークポート情報内の IPv4 および IPv6 アドレスに「N/A」が表示される場合があります。
OS のツール (Windows Server: ipconfig、Red Hat Enterprise Linux: ip addr など) を使用して確認してください。

アダプター 2 - Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4

SKU --
ロケーション PCI-E Slot 1
ファームウェア 1.3063.0
ステータス OK

ネットワークポート

↑ポート	MACアドレス	IPv4アドレス	IPv6アドレス	リンクステータス	チームブリッジ
1	04:00:00:00:00:00	192.168.1.104	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
2	04:00:00:00:00:00	192.168.1.105	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
3	04:00:00:00:00:00	192.168.1.106	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
4	04:00:00:00:00:00	192.168.1.107	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A

アダプター 3 - Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4

SKU --
ロケーション PCI-E Slot 2
ファームウェア 1.3063.0
ステータス OK

ネットワークポート

↑ポート	MACアドレス	IPv4アドレス	IPv6アドレス	リンクステータス	チームブリッジ
1	04:00:00:00:00:00	192.168.1.104	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
2	04:00:00:00:00:00	192.168.1.105	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
3	04:00:00:00:00:00	192.168.1.106	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
4	04:00:00:00:00:00	192.168.1.107	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A

正常時の表示例

アダプター 2 - Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4

SKU --
ロケーション PCI-E Slot 1
ファームウェア 1.3063.0
ステータス OK

ネットワークポート

↑ポート	MACアドレス	IPv4アドレス	IPv6アドレス	リンクステータス	チームブリッジ
1	04:00:00:00:00:00	192.168.1.104	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
2	04:00:00:00:00:00	N/A	N/A	● リンクアップ	N/A
3	04:00:00:00:00:00	N/A	N/A	● リンクアップ	N/A
4	04:00:00:00:00:00	N/A	N/A	● リンクアップ	N/A

アダプター 3 - Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4

SKU --
ロケーション PCI-E Slot 2
ファームウェア 1.3063.0
ステータス OK

ネットワークポート

↑ポート	MACアドレス	IPv4アドレス	IPv6アドレス	リンクステータス	チームブリッジ
1	04:00:00:00:00:00	192.168.1.104	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
2	04:00:00:00:00:00	192.168.1.105	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
3	04:00:00:00:00:00	192.168.1.106	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
4	04:00:00:00:00:00	192.168.1.107	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A

事象発生時の表示例

5) OS に関する注意事項

● サーバーマネージャー上の赤い警告表示について

本製品の出荷時状態で、OS 起動後にサーバーマネージャーを表示すると、サービスに関する警告が赤色で表示されます。

警告の内容が、Microsoft Edge Update Service (edgeupdate) サービスに関するものである場合、実害はありませんので、無視いただいて問題ありません。

本警告の詳細については、下記 URL のマイクロソフト社の情報を参照してください。

Windows Server 2022 において、サーバーマネージャー上に edgeupdate サービスに関する警告が表示される。

<https://jpwinsup.github.io/blog/2021/09/29/UserInterfaceAndApps/SrvMngWithEdge/>

● Windows Server (R) OS ご使用時の注意事項

32 コア (物理コア) を超えるプロセッサを搭載している場合、Windows Server (R) 2019 でシステム情報 (Msinfo32.exe) ツールとタスクマネージャーの [パフォーマンス] タブに、プロセッサのソケット数やコア数、L1 キャッシュと L2 キャッシュのサイズが正しく表示されません。

詳細は、下記のリンクを参照してください。

Windows Server (R) 2019 サポート情報

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140106598>

iLO Web インターフェイスまたは System Utilities では正しい CPU 情報が確認できます。

6) 全般の機能に関する注意事項

● N8103-184/E184 SAS コントローラご使用時の注意事項

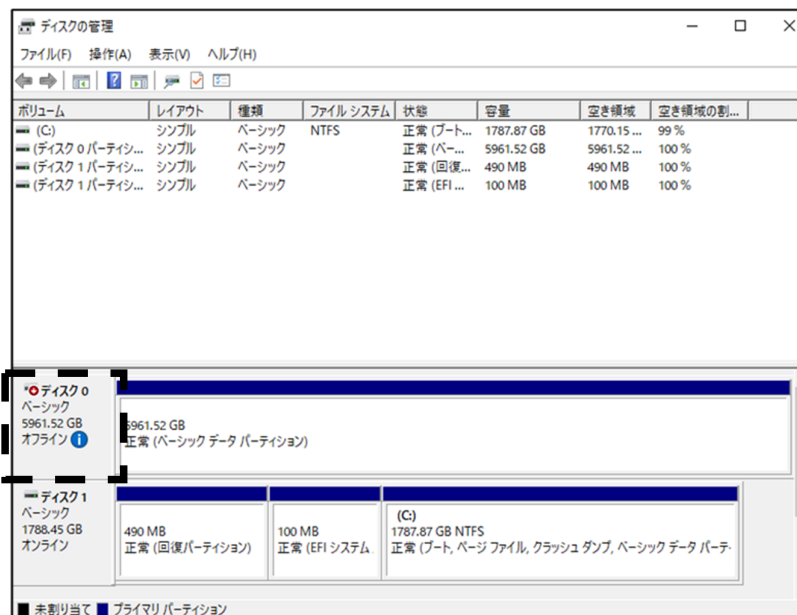
N8103-184/E184 SAS コントローラを使用する場合、iLO Web インターフェイスの[System Information] - [Storage] - [Storage Controller]のStatusが“不明(Unknown)”と表示される場合がありますが動作に影響はありません。

● N8103-244/246 RAID コントローラご使用時の注意事項

- ・ システム ROM バージョン 2.32 未満の場合、iLO Web インターフェイスの One-button セキュア消去レポートの位置(Location)情報が実際のドライブの搭載スロットと異なることがありますが、One-button セキュア消去の動作は、正常に完了します。
消去結果は「成功」の表示で確認してください。

システム ROM バージョン 2.32 では、この問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

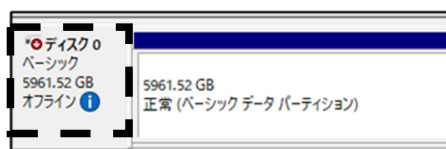
- ・ Windows 環境でファームウェアバージョン 03.01.23.072 を用いた N8103-244 と N8103-246 の混在構成、もしくは N8103-246 を 2 枚搭載している構成の場合、起動時に OS がインストールされていないディスク(データディスク)がオフラインになる場合があります。データ消失などは発生しません。



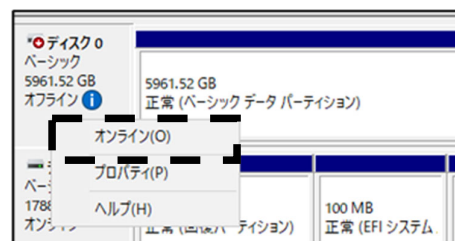
本事象はお使いの OS が Windows の場合でのみ発生します。

本事象が発生した場合は下記の手順を参考に「ディスクの管理」よりディスクをオンラインに変更してください。

[ディスクの管理からオンラインに変更する方法]



① オフラインになっているディスクの点線で囲った部分を右クリック



② オンラインをクリック

● PCI カードの取り付けに関する注意事項

PCI カードを本装置に取り付ける際は、PCI スロットに差し込んだ後、PCI カード、またはライザーカードに付属のネジを用いてライザーカードに固定してください。

なお、工場出荷時に搭載されている PCI カードはネジで固定しています。

● 「Halted system due to SPD (Security Protocol and Data Model) component authentication failure」と表示された場合の注意事項

システムの再起動を実行した場合、まれに以下に例示する SPD 関連のエラーが発生して、OS が起動しないことや、電源投入時セルフテスト (POST) が完了しないことがあります。

例:

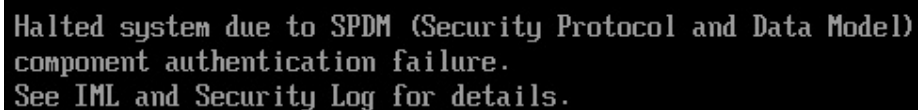
1. Halted system due to SPD (Security Protocol and Data Model) component authentication failure
2. System halted due to Security Protocol and Data Model (SPD) component authentication failure

この画面で停止した場合は以下のいずれかの方法でシステムを再起動してください。

- ・ iLO Web インターフェイスより「Power & Thermal > Server Power > Virtual Power Button」の「Press and Hold」をクリック後、[System Power]が[OFF]になっていることを確認し、[Virtual Power Button]の「Momentary Press」をクリックしてください。

もしくは

- ・ 本装置の POWER スイッチを 4 秒以上長押しし、POWER ランプ消灯を確認してから、再度 POWER スイッチを押してください。



Halted system due to SPD (Security Protocol and Data Model)
component authentication failure.
See IML and Security Log for details.

● サーバ診断カルテについて

サーバ診断カルテは、対象製品の稼働状況を記録し、月ごとに稼働状態の診断カルテを提供するサービスです。サーバ診断カルテの詳細は、Starter Pack 内の「サーバ診断カルテ セットアップガイド」を参照してください。

サーバ診断カルテの最新の情報および注意事項、制限事項については下記の Web サイトを確認してください。サーバ診断カルテは最新版を使用することを推奨します。

NEC サポートポータル (Windows 対応版)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010106809>

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の①のポップアップが表示された場合は②以降の手順を厳守してください。

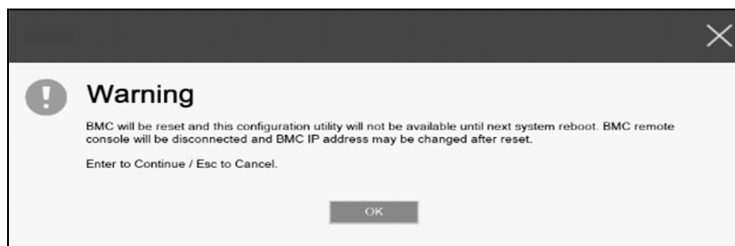
注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization - Start」のメッセージで POST 停止、あるいは対象サーバーに記録されている Serial Number、Product ID などが消失することがあります。

「Memory Initialization - Start」のメッセージで POST 停止した場合は、システムメンテナンススイッチ SW6 にて、システム設定をデフォルトに戻し正常に起動することを確認してください。

SW6 の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4 システム設定情報の初期化」>「7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。

Serial Number、Product ID などが消失した場合の復旧方法は、メンテナンスガイドの「5. トラブルシューティング」>「5.11 補足事項」の「Serial Number、Product ID が消失してしまった」の項目を参照してください。

- ① システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLO の再起動を行うために、次の Warning (注意) ポップアップが表示されます。

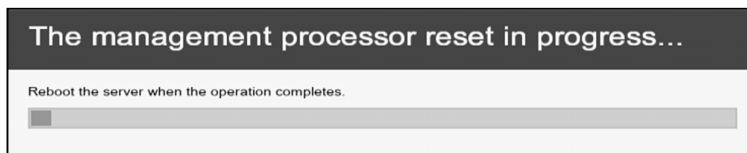


英語表示の場合



日本語表示の場合

- ② 「OK」を押して進めます。
- ③ iLO の再起動が開始され、次のプログレスバーが表示されます。
プログレスバーが表示されている状態で何も操作は行わず、必ず 3 分以上お待ちください。
もし、3 分以内にプログレスバーが終了した場合においても、そのまま 3 分以上お待ちください。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- ④ 3 分以上経過後、以下を確認します。
- A. 本体装置操作時
対象サーバー前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。
- iLO が再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅 (毎秒 1 回)
- iLO の再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯
- B. リモート (iLO Web インターフェイス) 操作時
対象サーバーにログイン画面が表示されていることを確認してください。

- ⑤ ④において、iLO の再起動の完了を確認後、〈ESC〉キーを複数回押して、システムユーティリティ画面に戻ります。
- ⑥ システムユーティリティの「Reboot the System」を選択してシステムを再起動します。

A) ファームウェア変更に伴う変更点

(1) UMONITOR オプション

システム ROM バージョン 2.60 以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Processor Options」メニュー配下に「UMONITOR」オプションが追加されます。

オプション	パラメーター	説明
UMONITOR (注 1)	Enabled [Disabled]	このオプションを使用して、CPL3 ソフトウェアが UMONITOR/UMWAIT 命令を使用するように構成します。

[]: 出荷時の設定

注 1: システム ROM バージョン 2.60 以降にて追加されるオプションです。

- (2) Uncore Frequency RAPL オプション、CPU C1 Auto Demotion オプション、CPU C1 Auto Undemotion オプション
システム ROM バージョン 2.60 以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options」メニュー配下に「Uncore Frequency RAPL」オプション、「CPU C1 Auto Demotion」オプション、「CPU C1 Auto Undemotion」オプションが追加されます。

オプション	パラメーター	説明
Uncore Frequency RAPL (注 1)	[Enabled] Disabled	このオプションは、実行平均電力制限 (RAPL) バランサーを有効にするかどうかを制御します。このオプションを有効に設定すると、アンコアの電力バジェットがアクティブになります。
CPU C1 Auto Demotion (注 1)	Enabled [Disabled]	CPU が自動的に C1 に降格できるようにします。
CPU C1 Auto Undemotion (注 1)	Enabled [Disabled]	CPU が C1 から自動的に降格解除できるようにします。

[]: 出荷時の設定

注 1: システム ROM バージョン 2.60 以降にて追加されるオプションです。

■商標について

EXPRESSBUILDER、ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft(R)、Windows(R)、Windows Server(R)は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel(R)、Xeon(R)は米国 Intel Corporation の登録商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がある場合は、下記のファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター TEL : 0120-5800-72 受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く) ※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC

2026 年 6 月 第 5 版



* CBZ-062600-201-04 *